

区分・種別	県指定有形文化財（石造美術）		
名称	しちじゅうせきとう 七重石塔 1基		
所在地	西条市福武		
所有者	金剛院	管理団体	
指定年月日	昭和29年11月24日		
解説	<p>金剛院は仏生山光明寺、本尊不動明王、真言宗御室派^{おむろ}の寺である。この七重石塔は、本堂南側にあり総高322センチメートルの花崗岩製である。</p> <p>七層の屋根もこぶりなもので、反りもゆるやかな曲線^そでつましやかな感じのものとなっている。</p> <p>伝承では、鎌倉幕府3代将軍実朝の遺髪塔（供養塔）といわれているが、特別な史料は残っていない。実朝は建保7（1219）年に非業の最期を遂げており、夫人である北の方（剃髪して本覚尼）が文永年間（1264～75年）の実朝の50回忌に供養のため建立したものといわれている。</p> <p>石塔軸部には径9寸（27センチメートル）の（月輪）の中に梵字アーク（大日如来の種子^{しゅじ}）が彫ってある。</p>		

